

研修機関	株式会社 大和印刷社
研修期間	平成16年9月1日～10月31日
所属・氏名	津幡町立津幡南中学校 倉 拓也

I 研修目的

- ・ものづくりに携わる企業の仕事を通じ、社会が求める人材像を知る。とくに美術教育の使命を確認する。
- ・ビジュアルデザインや印刷の現場で学び、美術科教諭の資質を高める。

II 研修内容

1 会社の概要説明

2 インク問屋の見学

- ①インクの説明と練り合わせ工程見学

3 紙問屋の見学

- ①紙の製造、流通の説明と在庫管理、断裁、出荷工程見学

4 製版

- ①DTPシステムの工程説明

- ②マッキントッシュ上でイラストレータ・フォトショップ・クォークを使つての原稿デジタル処理体験

- ③製版体験

5 印刷

- ①オフセット印刷の工程説明

- ②インクの説明と練り合わせ工程見学

- ③紙積み、版セット、印刷、印刷機メンテナンスの工程見学

6 断裁

- ①断裁工程の説明、印刷用紙、製品の断裁見学

- ②断裁くず回収業者の古紙リサイクルについての説明

7 製本・梱包

- ①製本、折り等の加工についての説明

- ②梱包、荷造り作業体験

8 工務

- ①原材料注文、在庫管理についての説明と業務見学

- ②製品の価格設定についての説明と価格計算実習

- ③校正の体験

9 加工

- ①差し込み、梱包体験

- ②製本業者での製本、折り工程の説明と見学

- ③輪転印刷機での印刷の説明と見学

- ④型抜き業者での型抜き加工の説明と見学

- ⑤製袋業者での封筒製造の説明と見学

- ⑥デザイン事務所でのデザインに関する説明と見学

1 0 営業

①営業活動に同行し、業務見学と営業活動についての説明

1 1 発送

①製品運送、納入体験

②梱包荷造り体験

1 2 研修のまとめと教育についての意見交換

III 研修成果

教師という仕事につき10年あまり、学校全体がわかりはじめてきたときに、他業種、他組織で一人ひとりとお話をたくさんうかがえたことが何よりの勉強になりました。教師として以前に人としての勉強になったと思います。

忌憚なく申すと研修前は「民間企業は利益追求を最優先とし、金がもうかれれば何をしても許される」との先入観を持っていました。しかし社長さん以下、どの社員の方々も「人と人のおつきあい、助け合い」を心から大切にされていたこと、「人のつながり」がひろがることに喜びを感じていらっしゃったこと、「競争の時代」とのことばとは裏腹に「共存共栄」に価値をおいていたことが意外で感服しました。お仕事のじゃまであるにもかかわらず、こころよくいろいろなことを教えていただいたことにそれがよく現れていると思いました。むしろ教師の方が、日々マスコミ等にたたかれているせいか、疑心暗鬼になり壁をつくってコミュニケーションをこぼむ傾向があるように思え、そういう面は強く反省改善せねばならないと思います。

この研修の第一目的は、学校教育において社会の要請にこたえるために、ものづくりに携わる企業の仕事を体験することで社会が求める人材像を知ることでした。しかし研修を終えても具体的な「社会が求める人材像」はわかりませんでした。おそらくそれは「企業のための人材」とか「今の時代のための人材」という特別なものはなく、人として当たり前の人間が大事な人材であり優秀な人材だからなのだろうと考えました。あるいは学校教育で育てようとしている人材像と社会が求めている人材像は同じだから、とくに違いに気づけなかったのかもかもしれません。

この研修で、美術科教諭としての資質がたいへん向上したことも極めて有意義でした。具体的には、いままで理屈でしか理解していなかった印刷の実際の工程がわかったこと。とくに製版やオフセット印刷の作業を身近でくわしく見られたこと。印刷に関わる様々な工程をいろいろ見聞きできたこと。ひとつひとつに意味があり、かつ無駄がない職人の動作を知ったこと。インクの色や厚みについて大変厳しく吟味されていることを知ったこと。ものづくりの現場のデジタル化を実際に見聞きし、またメリットデメリットをくわしく聞いたこと。技能者として後進を育てている現場にたちあい、またいろいろな話を聞いたこと。等々語りつくせぬほどいろいろな知識を学びました。これは授業や進路指導にすぐに生かせる成果です。

さらに美術教育の意義と必要性もあらためて確信しました。社員あるいは関連企業の方々が印刷業界にはいった動機やきっかけは様々でした。そして、いろんな方が印刷業界では美術的なセンスも必要だとおっしゃっていました。いくら進路学習をしようとする自分の将来はわからないのであり、だからこそ義務教育ではあらゆる資質や能力を身につけておかねばなりません。年々、授業時数が削減されて十分な力をつけることが難しくなっていますが、使命感をあらたにして美術教育に力を入れていきたいと思っています。

営業の方の仕事もとても勉強になりました。公務員は仕事があるのがあたりまえであり、当然その代価として給料をもらっていますが、企業の場合はまず仕事をいただかなければ代金ももらえないのであり、仕事をいただくための営業活動というのは全くわからない世界でした。当初は、つねに原価と利益を考えて、もうけのために活動しているのだらうと予想していましたが、幾日か同行させていただいて、利益を追求することも当然ながら「人と人とのつながりのなかで、相手に満足してもらい、そして自社も助けてもらう」という道徳的な価値観を基本に営業活動されていることに感動しました。しかし、価格競争がはげしくなかなか受注できないことや年々、受注しても利が薄くなっているとのことで、そういう面ではたしかに企業は厳しく、なにか申し訳なく感じました。

一枚の印刷物を出荷するまでに、思いもよらない多くの工程とたくさんの人の手を経ていることも驚きでした。それぞれの工程の担当者が自分の仕事に責任をもっていること、そして誇りと自信をもっていることがすばらしいと思いました。さらに当然のことながら、どれだけ単純な作業にもプロのノウハウがあり、素人が一朝一夕にはまねできないことも、実際に体験してみて思い知らされました。正直に申して印刷物の値段は高いという印象を持っていたし、現に決して安いわけではありませんが、職人的な技能をもったたくさんの人の手を経ていることを考えれば、むしろ安いと思いました。しかし素人には印刷の工程の多さや仕上りの美しさの違いはわかりません。パソコンプリンターやコピー機、事務用印刷機のコストを基準に値段で比較判断するのであらうと考えられ、そこがとても難しいところかなとも思いました。

いろいろな工程を見学させていただき、それぞれの部署でいろいろなお話をうかがえたこともとても有意義でした。そのお話のなかには、現状や他部署についての不満もあり、それはその部署の立場からみればもっともお話ばかりでした。しかし他部署の立場からみれば、しょうがないことだったり理解不足や誤解だったりすることもあったように思います。円滑な人間関係のために、不平不満は外に出されないのだと思いますが、矛盾や不満を感じたまま仕事をしていると製品に対しても不信感が生まれるのではないかと僭越ながら思いました。それぞれの工程や部署の仕事についてコミュニケーションや理解をもっと深めるにはどうすればいいのだらうかと考えさせられ、自分におきかえれば、学級経営はもとより学校の中堅として職員集団を機能させていくべき歳になり、組織の一員としての責任と役割も考えさせられました。

また、印象に残ったことで、目標や課題をつねに持って拡大向上をめざしておられたことがあります。それは売り上げや利益の量的拡大でもあるし、さらなるデジタル化や設備の更新などハード面でのことでもあるし、あるいは組織のあり方や同業者との差別化ということでもありました。そういう前向きでエネルギーな発想と行動に刺激を受けました。そして結果が期待できるならまよわず投資するという考え方にも、儉約することしかできない教師からみれば目からウロコの思いがしました。しかしこの考え方や行動を学校にすんなり導入するのは難しいとも思いました。なぜなら、語弊がありますが子どもを原材料や素材だと考えると、原材料の質の均質化や向上、あるいは教育法の合理化はありえないからです。むしろどんな子ども、社会が要求する人としての一定の資質を確実に身につけさせ社会に送り出すことが、学校としての責務を果たしていることになるのだと考えます。

IV 今後の課題

大和印刷社では、職人的な印刷の部署はもとより、各部署で後進を育てることが機能していたように思います。学校現場をふりかえるとき、人を育てる職業でありながら新人あるいは後

進をきちんと教え育てられているのか、はなはだ心もとないのではないのでしょうか。あらためて中堅として若手の指導をしていきたいし、また組織として人を教え育てているのか検証し警鐘をならしていきたいと思います。

現在の経済状況では教員はめぐまれた労働条件にあると言え、企業で研修するにあたり、なにがしかの批判を覚悟していました。しかし実際はすべての方から、現在の学校教育について同情と励ましのお言葉をいただき、それが一番うれしく思いました。しかし、昨今の教育の荒れや学力低下、あるいは理解しがたい現象の多発について、たいへん危惧しておられ、教師が毅然とした指導で児童生徒を律してほしいこともつよく要望されました。今後、児童生徒の衝動を律する指導法の工夫にさらに検討を加えていきたいと思います。

この研修は、受け入れ企業には多大な迷惑と負担をおかけしていることを承知しながらも、教員の資質向上ひいては教育の質の向上にたいへん効果的な研修です。昨今の経済状況を鑑みると、企業に余裕がなくなりつつある状況も想像できますが、ぜひ継続してほしいと思います。また、大学から現役採用になった若い教師の中には、社会常識や教師としての使命感が不足している者も見受けられ、そういう者にも1、2年の企業研修が必要ではないかと考えます。

人としてたいへん有意義で貴重な体験をさせていただいたことに、関係各位に心から感謝しております。この研修で、教師としての使命を新たにしました。今後はこの研修を経て向上した資質を、私が受け持つ生徒をはじめ公教育を通じ、社会に還元していく所存です。